

〔科目名〕 経営戦略論Ⅰ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 小松原 聡 こまつばら さとし	〔オフィス・アワー〕 時間： 授業時間の前後を利用します 場所： 講義に使用する教室 ※ オフィス・アワー外の連絡先(メール・アドレス) s-komatsubara@aomoricgu.ac.jp	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 「経営戦略論」は経営学における重要な学問領域の一つであり、企業の存在目的や意義を高度に実現するための目標体系や、目標を達成するための合理的な施策・実現手段・活動体系を導くための理論体系です。「経営戦略論Ⅰ」では、最初に企業の社会において果たすべき本質的なミッションについての考え方を理解した上で、企業の行動を決定付ける各種戦略理論を修得します。 企業経営に関する戦略理論のスコープは広く、また戦略の策定視点も多様性に富むので、戦略理論の体系を俯瞰した上で、企業の行動を決定付ける個別の戦略策定領域の理論について講義します。企業経営の本質について考察することから始め、戦略経営を実現するための具体策としてデジタル等の技術進化を効果的に活用するための視点を含めて理解することを視野に入れます。 この科目では、理論の修得だけではなく、経営戦略策定等のコンサルティング実務経験を有する教員の経験を活かした講義を行う、実践的な課題解決型学習(PBL)の要素を取り入れた授業を展開します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 【他の科目との関連付け】 戦略経営では、企業組織内のさまざまな機能や組織階層間の連携・整合性が確保されることのみならず、市場や経済等社会全般との関わりの中における適切な意思決定に基づく企業行動が求められます。本講義を通じて経営戦略理論を実際の企業経営のコンテキストの中で理解できるようになるためには、経営組織・管理、マーケティング、会計・財務等、経営理論の統合的な理解が必要とされるのみならず、他学問分野を含めた学際的な知識を修得する姿勢が大事になります。 【学んだことが何に結びつくか】 経営戦略に関する主要理論を体系的に理解することを通じて、企業経営の諸局面における戦略的行動に関する意思決定に必要な戦略理論の選択と適用ができるようになることを目指すことにより、経営学科のディプロマ・ポリシーに明示された能力を獲得します。さらに、戦略経営に不可欠な、デジタル・トランスフォーメーション時代における技術対応を意識できるようになることを目指します。 1. 戦略的な経営に必要な戦略理論を的確に選択でき、それを適用できるようになる。 2. 戦略経営の基本フレームを設計することができる。 3. 技術の発展に合わせた戦略経営の進化を意識することができる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 本講義では、戦略的な企業行動のあり方に関する基本的な理解を修得し、戦略策定のための理論を具体的な経営行動との関連において理解できることを目指します。そのためには、さまざまな情報を取捨選択し、自ら考え、判断できる能力の獲得を目指します。このような能力の獲得を通じて、経営学科のディプロマ・ポリシーにある「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力を獲得します。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 今期の授業が担当教員にとって初年度の授業であり該当する評価結果はないので、コメント等はありません。実践的な戦略理論の枠組みを理解しそれらを活用できる基礎力を獲得することを重視します。		
〔教科書〕 以下の書籍を教科書として使用します。 「戦略経営の基本フレームと実践 価値創造企業へ進化するDX時代の経営システム・デザイン」、小松原聡著、文眞堂(2023年4月28日)。		
〔指定図書〕 特に指定しません。		
〔参考書〕 授業内で適宜紹介します。		
〔前提科目〕 経営学科における基礎科目を修得していることが望ましい。今後「経営戦略論Ⅱ」を履修することにより、基礎的な経		

営戦略論の知識を深化させることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・学期末試験：実施しません(0%)。 ・授業の理解度を確保する課題レポート(4テーマ分)の評価(100%)。 ・特別の配慮が必要な学生については、個別に対応します。	
〔評価の基準及びビスケール〕 上記の配分に従い、下記の点数の範囲で評価を行います。 A:100～80 点、B:79～70 点、C:69～60 点、D:59～50 点、F:49 点以下 課題レポートは、以下の視点から評価します。 ・出題意図の理解 ・授業で学習した経営理論や要件の理解度 ・解答の論理性 ・解答の文章量と表現の妥当性(分かり易さ、読み易さ、日本語表現の妥当性、等) ・他の文献やウェブサイトからのコピーが大半を占める、他の学生と同一の記述が目立つものは大幅減点します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 経営戦略論をよりよく理解し、組織において経営学を実践的に応用できる能力を養成するために、理論と具体的事例を交えた講義を行います。 授業開始前に、シラバスに記載の授業内容を教科や授業資料で確認し、重要と思われる箇所やわからない箇所をチェックしておくことが望まれます。授業終了後は、学習内容を整理し体系的な理解を深化させるとともに、疑問点を解消する取り組みを行うことを求めます。授業における標準的な事前・事後学習時間は2時間です。	
〔実務経歴〕 経営コンサルタントとして、戦略マネジメント・コントロール・システムの開発～実装に関するプロジェクトを多数実施。総合商社の企画部門で商権(＝事業モデル)改革や、異業種交流のための研究組織の事務局長も経験。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション 経営学の概要と企業の種類 内 容： ・本講義の目的・概要、授業の進め方、成績評価方法、その他留意点について ・経営学・経営戦略論の学問的位置付けと経営学を学ぶ意義 ・企業の分類と本授業における主たる対象 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第1章1、第2章2.1。
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 企業の本質と戦略経営の考え方 内 容： ・企業に関するさまざまな定義 ・企業の存在目的 ・企業における戦略経営の考え方 ・戦略経営の要件 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第1章1.2、1.3。
第3回	テーマ(何を学ぶか)： 戦略と戦略理論の多様性 内 容： ・戦略の本質： 意義、定義、矛盾要素 ・戦略の種類： 必要とされる領域と理論の多様性 ・戦略の5つの視点と10の学派 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第7章7.1、7.2。
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 戦略概念の進化と階層構造 内 容： ・経営における戦略概念の導入とその進化 ・経営戦略の階層性 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第7章7.3と7.4。
第5回	テーマ(何を学ぶか)： 環境分析に基づく戦略策定の理論 内 容： ・環境を分析することの意味と考え方 ・強み・弱みと機会・脅威(SWOT)分析 ・さまざまな環境分析手法

	・環境分析における留意点 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第8章8.1。
第6回	テーマ(何を学ぶか)：ポートフォリオ・マネジメント 内 容： ・事業のライフサイクル・ステージ ・ライフサイクルと資源要求 ・ポートフォリオ・マネジメントによる事業構造改革 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第8章8.2。
第7回	テーマ(何を学ぶか)：事業における競争優位を確立するための戦略論 内 容： ・競争戦略のフレーム ・競争分析 ・基本戦略 ・バリューチェーン 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第8章8.3。
第8回	テーマ(何を学ぶか)：規範的な戦略論の限界 内 容： ・環境変化の加速がもたらすもの ・予測可能性を前提とする戦略構築の脆弱性 ・これからの戦略経営のあり方 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第9章9.1。
第9回	テーマ(何を学ぶか)：ダイナミックな戦略理論の類型と代表的な理論 内 容： ・環境変化の加速と不確実化に対応できるダイナミックな戦略論 ・法則型ダイナミック戦略論 ・不確実性ダイナミック戦略論 ・プロアクティブ型ダイナミック戦略論 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第9章9.2。
第10回	テーマ(何を学ぶか)：経営資源と組織の能力とに着目した戦略理論 内 容： ・完全競争市場からの離脱と完全独占市場への接近 ・資源論とVRIO フレームワーク ・学習する組織が備えるべき要件 ・組織特殊な能力の養成 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第9章9.3。
第11回	テーマ(何を学ぶか)：戦略策定の基本フレーム 内 容： ・戦略を規定する要素 ・戦略ドメインの決定 ・事業コンセプトの策定 ・二つの戦略構築アプローチ 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第10章。
第12回	テーマ(何を学ぶか)：日本的経営の特徴と日本企業の地盤沈下 内 容： ・日本的経営の成立と終焉 ・日本企業の地盤沈下の実態 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」第6章6.1、6.3。
第13回	テーマ(何を学ぶか)：日本企業の強みの源泉とグローバル・スタンダード経営への接近 内 容： ・現場力の本質 ・日本企業のこれまでの経営改革への取り組み実態とその評価 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」第6章6.2、6.4。

第 14 回	テーマ(何を学ぶか)： 成長戦略の必要性とそのフレーム 内 容： ・成長戦略の重要性と基本的な考え方 ・成長を実現するためのアプローチ ・成長を阻害してきたこれまでの効率志向の経営 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第 15 章。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： 授業の総括 内 容： これまでの授業内容全体の流れを確認し、戦略経営の本質に対する理解を深める。 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の該当箇所全体。
試 験	期末の定期試験は実施しません。